

検討事項1 「初期・二次・三次救急の役割の整理と、医療機関の機能分化について」 現状と課題、論点、今後の方向性

No.	現状・課題	論点
1	社会保障制度改革の検討の中で、今後の更なる高齢化の進展によって医療ニーズが慢性疾患を中心とするものに変化しながら増大していくことが想定され、限られた医療資源を医療ニーズに合わせて効果的にかつ無駄なく活用できるよう、医療提供体制の再構築に取り組むことの必要性が認識されている。	<p>【医療の機能分化は国の政策誘導によって進められているところであるが、これを本市においてより実効性のあるものとしていくために、受診先の偏在是正などに向けた取り組みが必要である】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介・逆紹介による病病連携、病診連携の状況に改善は必要だろうか？ ・医療の機能分化については、関係機関の総力による市民啓発が必要ではないだろうか？ ・初期救急と二次救急とを分け、初期救急の体制を強化する必要があるのではないだろうか？ ・診療所やかかりつけ医が初期救急に対応できる仕組みが必要ではないだろうか？ ・特に小児科については、休日、及び初期救急医療における診療体制の検討が必要ではないだろうか？ ・初期救急の体制が強化されるまでの間、インフルエンザ等の流行期に武蔵野赤十字病院の機能維持を支援するための仕組みが必要ではないだろうか？
2	上記の認識のもと、国が進める社会保障制度改革の一環として、2025年に向けた急性期病床の位置づけの明確化、一般病床における長期入院の適正化、在宅医療の充実等といった取り組みが進められている。	
3	武蔵野赤十字病院では平成25年7月より時間外選定療養費を導入、10月からは完全紹介予約制を導入した。高度急性期医療機関としての入院診療、救急医療を中心とした体制を推進している。	
4	武蔵野赤十字病院では1日に約1,350人が外来受診し、年間入院患者数は20万人を超えている。	
5	本市における救急医療体制について、休日初期救急については救急告知医療機関である5病院のうち輪番制で3か所が実施しており、二次救急についても同5病院により実施されている。一方他市区の多くは、休日診療所を施設や診療所の輪番で実施しており、初期救急と二次救急の役割が分かれている。	
6	休日診療、救急医療において初期、二次救急合わせて患者の2/3が武蔵野赤十字病院に受診している。	
7	小児科については初期・二次救急を担う5病院に診療科がないため、三次救急を担うべき武蔵野赤十字病院が初期救急から患者を受け入れている。	
8	インフルエンザ等が流行した際、患者が武蔵野赤十字病院に集中する実態がある。武蔵野赤十字病院の機能維持を支援するため、流行時にはその都度武蔵野市医師会、武蔵野市薬剤師会と行政との協議をおこない、インフルエンザ休日診療所を開設している。	



【今後の方向性と対策】

1	シンポジウムの開催やパンフレットの作成・配付を通じて、救急医療体制の理解と活用等について、市民啓発を積極的におこなっていく。(短期的課題)
2	小児を含めた初期救急体制の構築については、今後医師会において充実に向けた検討を行う。検討にあたっては、医療の機能分化の推進及び市民に分かりやすい体制を構築するため、市内5病院は二次救急に専念するとともに、新たに初期救急を担う診療所の開設を目指す。(短・中期的課題)